

技術概要書（様式）

※別紙2

技術分類	安全・防災 <b>維持管理</b> 環境 コスト ICT 品質 <span style="color: red;">（該当分類に○を付記）</span>																				
技術名称	鋼管柱路面境界部腐食診断装置 コロージョンドクター	担当部署	統括本部																		
NETIS登録番号	KT-150121-A	担当者	渡辺 陽																		
社名等	株式会社レックス	電話番号	0798-38-6363																		
技術の概要	<p>1. 技術開発の背景及び契機</p> <p>弊社はレンタル企業ですので、当該製品の開発は行っておりません。</p> <p>2. 技術の内容</p> <p>道路標識柱等、鋼管柱路面境界下の健全・腐食度合を超音波を使った非破壊で診断する技術。鋼管柱の地上部から超音波(SH波)を送り、路面下からの反射波を比較計算することで路面境界部下の状態を健全(○)、ほぼ健全(△)、腐食劣化(×)の3段階で判定し、埋設部周囲のコンクリート舗装やアスファルト舗装を掘削しない非破壊による一次スクリーニング調査技術である。腐食劣化(×)判定された鋼管柱のみを対象に試掘を実施することになるため、従来と較べてコスト低減と工期短縮が図れる。</p> <p>3. 技術の効果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・超音波による判定に変えたことにより、掘削・復旧作業がなくなり、経済性の向上(コスト削減)、及び工程の短縮が図れる。</li> <li>・F/B(腐食指数)を用いることにより腐食が存在するとFエコーが大きくなる分、Bエコーが小さくなることからF/B(腐食指数)は強制的に増大するために腐食検出能力が高くなり、診断品質の向上が図れる。</li> <li>・4点の測定結果を1画面表示することにより直観的に腐食箇所を知ることが可能になり、現場での対応が簡素化することで施工性が向上する。</li> <li>・管理台帳ソフトMEMOに測定結果を貼付可能になることにより時系列経緯を含めた一元管理が可能になり情報化の向上が図れる。</li> </ul> <p>4. 技術の適用範囲</p> <p>コンクリート舗装、アスファルト舗装、インターロッキングブロック舗装に埋設された鋼管製標識柱・照明柱等道路附属物の定期保守点検。</p> <p>5. 活用実績</p> <table border="0"> <tr> <td>国の機関</td> <td>0 件</td> <td>(九州</td> <td>0件</td> <td>、九州以外</td> <td>0件)</td> </tr> <tr> <td>自治体</td> <td>0 件</td> <td>(九州</td> <td>0件</td> <td>、九州以外</td> <td>0件)</td> </tr> <tr> <td>民間</td> <td>0 件</td> <td>(九州</td> <td>0件</td> <td>、九州以外</td> <td>0件)</td> </tr> </table>			国の機関	0 件	(九州	0件	、九州以外	0件)	自治体	0 件	(九州	0件	、九州以外	0件)	民間	0 件	(九州	0件	、九州以外	0件)
国の機関	0 件	(九州	0件	、九州以外	0件)																
自治体	0 件	(九州	0件	、九州以外	0件)																
民間	0 件	(九州	0件	、九州以外	0件)																

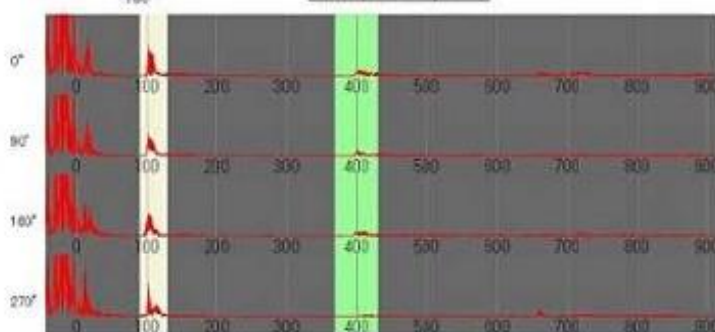
6. 写真・図・表



測定日: 2014年6月23日

測定結果一覧表

角度	調査指数	判定
0°	4.44	X
90°	4.05	X
180°	4.28	X
270°	31.11	K
総合	31.11	X



健全判定だが、怪しい  
部位が発見 試験

測定日: 2014/07/19日

項目	結果
管径	400
管種	FRP
管位	100
管深	100
管底	100
管壁	100